

## 取組事例② 学校給食に安心安全な国産野菜を供給

**目的** 新型コロナウイルスの感染拡大で多くの業界が大きな影響を受ける中で、とりわけ学校給食においても、臨時休校や学級閉鎖等により中止になることが増え、学校給食の食材を卸すことが中心の当組織も大きな影響を受けた。ピーク時に比べ臨時休校等は減ったが、そのような中で、学校給食の食材の安定供給を目指す当組織は、今後の一つの取組として、国内で生産された野菜の無駄のない活用法として国産野菜の冷凍品を取り扱いの拡大を推進する取組を行うこととした。

学校給食において現状は生鮮野菜が主体として流通しているが、国産野菜の冷凍品については、数量、アイテムと共に限られているため、まだまだ取り扱いが少なく、取り扱い拡大を行う事で、潜在的な需要獲得および販路拡大に繋がると考える。そこで「冷凍車の導入促進」や「冷蔵・冷凍倉庫を拡充」による一貫した商品の品温管理のコールドチェーンを整備し、国産野菜の冷凍品等の潜在する需要を獲得し、業容の回復・拡大につなげる。

### 事業内容・実施方法等

#### ◆ 冷凍車

##### ○ 配送業務の効率化

車両の新規導入により、新規配送ルートの追加、また既存の配送ルート・時間帯・配送シフトの見直し及び一部共同配送による業務効率・積載率の向上を図る。

##### ○ 品質保持・温度管理

常温・冷蔵・冷凍の三温度帯管理を強化し、品質・温度管理を可能とする。



#### ◆ 冷蔵・冷凍倉庫

##### ○ 需要拡大への対応

国産冷凍野菜等の顧客ニーズに合わせて、アイテム数の増加に対応するための適切な保管スペースを確保する。

##### ○ 品質保持の徹底

庫内温度の設定や定時的な測定等、HACCPの考え方を取り入れた適切な品温管理・衛生管理を図る。

#### ◆ 得られる成果及び目標

ポストコロナ下で事業の存続をキーとして、潜在的なニーズのある業務用ユーザーに販路を探り、事業拡大を図ることでリスクの分散を図る。

農林漁業の成長発展に関しては学校給食の業態で、食育からの地産地消、安心安全とトレーサビリティの観点から国内の産物の要望が高い。学校給食のみならず、メーカー・生産者の協力を得て、国内産の原材料をより使用した商品を現在より多く取り扱うことで国内の農林漁業の成長発展や食材の安定供給に寄与する。

また、地元根ざした会員企業であるからこそ地域のユーザー・生活者ニーズの変化への的確な対応を通じた販路の維持・拡大を図ることで、食料品等のサプライチェーンを維持し、地域の生活者に必要不可欠な

食料品等の安定供給を確保することで一般消費者の利益の増進に貢献する。

